
不老なあの子

日々楽々

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

不老なあの子

【Nコード】

N3080F

【作者名】

日々楽々

【あらすじ】

ぶつちやけ作者にもどうなるかわからない物語。ただ、おわり方は決まっている、はずだったけれど忘れちゃった。

アホな子のアホな誕生日と変なプレゼント（前書き）

すみません。意味不明で。

アホな子のアホな誕生日と変なプレゼント

少し肌寒くて、薄着でいるのは厳しい今日。Tシャツ短パンというありえない格好をしている少年が鼻歌なんか歌いながら、一人で繁華街を離れた路地裏を歩いていた。

「子供は風の子元気な子ー」

そんな彼はある一戸建ての前で右向けー右をして、その一戸建てに入ってしまった。

「ただいまー」

どうやらというかやっぱり、そこは少年の家だった。少年は適当に靴を脱ぎ散らかし、家の中に入っていく。

「お帰りなさいーい！こーらっ！ランドセルは自分の部屋に置いてきなさいっ！」

というわけで、彼は小学生だった。

「はーい！今日は誕生日プレゼントなにー？」

「つぶつぶつぶつぶつぶつぶつぶつぶつぶつぶ。まだ秘密よー」

というわけで今日は彼の誕生日だった。

彼の母は無駄に長く笑って、結局答えは教えなかった。

という流れで少年はなんかかわいい女の子を、誕生日プレゼントとしてもらったのだった。

いくら何でもデキターすぎる？いいじゃないか、気楽にいっつぜブラザー。

女の子と一緒に遊びに行った日（前書き）

心に毒薬な表現が多数含まれているようないないなのような。純粋な悪意が苦手な方は読まないほうがよろしいかと。

女の子と一緒に遊びに行った日

プレゼントとなってフォー僕された女の子は僕を見てきよとんとしていた。

「こんちゃよろしく」

僕はそう言っ手て手を差し出す。

「それはいい考えですね」

女の子は手を差し出さずに微笑んだ。僕は無理やり女の子の手を取って握手した。女の子の手は、僕が握ってすぐに魚みたいに跳ねて、手を放すまで地震みたいにずっとぶるぶる震えていた。

「ついてきて」

僕は思いきりドアを叩いて開けて部屋から出た。目の前の僕の靴に向かつてでゆあいぶする。スチャツと靴が足に装着された。後ろを振り返ると、女の子もでゆあいぶして靴に頭を捻じ込ませている。僕はうんうんと一人うなずいて玄関のドアを思いきり叩いた。

どこかに玩具はないかなあと周りを見渡して、なさそうだから女の子の手を掴んで縦だっこしながら歩いた。思ったより重い。っつかめっっちゃ重い。僕は女の子を放した。女の子は転んで地面に這いつくばる。僕の脚が何かに引っ掛かった。サッカーみたいに何かを蹴りながら、適当に散歩していると、少し前に女の子がぼるぼるになって立っていた。

「サッカーしようか」

「それはいい考えですね」

僕は一人でボールを蹴った。女の子はごろごろ転がった。ボールを蹴っていたら、玩具が寄ってきた。いっぱいいる。六つくらい。僕はボールを玩具に向かつて蹴り飛ばした。玩具は一瞬後ろに退いて、ボールに噛みついた。ボールは女の子になって、女の子は太ももに玩具をくつつけたままボーっとしていた。

「ねえ、玩具で遊ぼうよ」

「それはいい考えですね」

女の子は微笑んだ。

僕は玩具の口を掴んだ。他の玩具が寄ってくる。邪魔だから掴んだままの玩具を振り回してどけた。掴んだ玩具からこきつて音がした。周りの玩具はワンワンうるさい。あまりにもうるさくて、僕は苛々した。掴んだ玩具を地面に叩きつけて叩きつけてタタキツケテ叩きつけてたたきつけてたたき付けてたたきつけ手タタキ漬毛て多岐疲れたからやめた。周りを見ると玩具はいなくなっていた。掴んでいたはずの玩具は掴んでいるところしかなくなつてて、そこじやないところは全部ばらばらになって周りに飛び散っていた。

掴んでいた玩具の一部を少し遠くに見える箱に向かってスロー。インはせずに大きく外れて、箱の左左斜め下くらいのところに張り付いた。僕ってコントロールないんだろうか。んー。疲れたのでその場に腰をおろしてため息を吐くと、後ろから変な音が聞こえた。体をねじって後ろを向く。背中がボキボキ鳴った。気持ちよかった。後ろには玩具の上あごを掴んで、噛まれながら玩具を持った女の子がいた。玩具は変な鳴き声を出して暴れている。ものすごいく笑えた。ふあむつてなんだよ！

体が泥だらけになって痒いからお風呂に入りたくなった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3080f/>

不老なあの子

2010年11月25日02時49分発行